

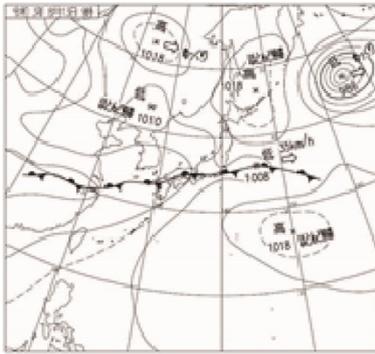
令和3年豪雨

令和3(2021)年8月11~19日

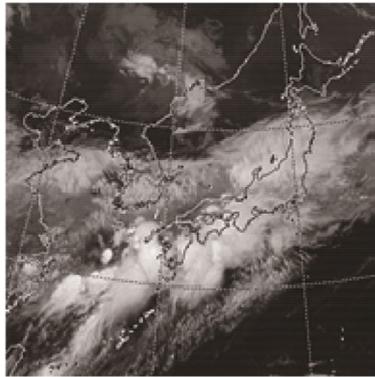
■気象の概況

8月11日から19日にかけて日本付近に停滞している前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込み、前線の活動が活発となった。その影響で西日本から東日本の広い範囲で大雨となり、総降水量が多いところで1200ミリを超える記録的なものとなった。8月12日は九州北部地方で線状降水帯が発生し、24時間降水量が多いところで400ミリを超える。8月13日は中国地方で線状降水帯が発生し、複数の地点で24時間降水量が8月の値の1位を更新した。この大雨に対して気象庁は広島市を対象とした大雨特別警報を発表した。引き続き8月14日は西日本から東日本の広い範囲で大雨となり、特に九州北部地方で線状降水帯による猛烈

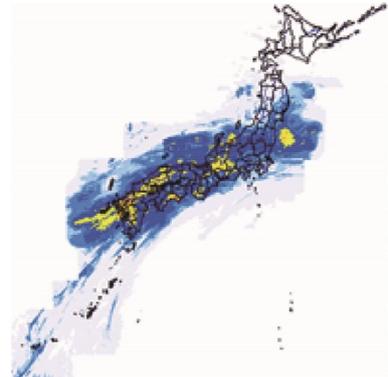
8月13日09時



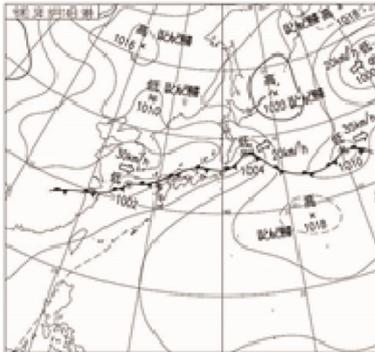
8月13日09時



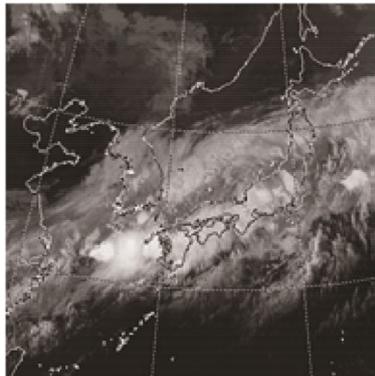
8月13日



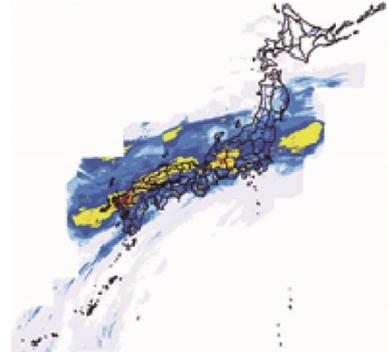
8月14日09時



8月14日09時



8月14日



参考文献：令和3年8月31日 気象庁発表資料

な雨や非常に激しい雨が降り続き、佐賀県嬉野市で24時間降水量が555.5ミリを観測。観測史上1位の値を更新するなど記録的な大雨となった。気象庁は佐賀県、長崎県、福岡県、広島県を対象とした大雨特別警報を発表。その後、西日本から東日本の太平洋側を中心に広い範囲で雨となり、1日の降水量が多いところで200ミリを超えた。全国各地で土砂災害や河川の増水や氾濫、低地の浸水による被害が発生し、大気の状態が非常に不安定となって岐阜県八百津町では竜巻による被害も発生した。

■被害の状況

中国地方では死傷者が広島県で4人出たほか、住戸の全半壊が広島県89件、島根県5件、山口県2件、岡山県1件となった。床上浸水は広島県120件、島根県1件、床下浸水も広島県が343件と飛びぬけて多く、島根県21件などが続いた。島根県は江の川下流の江津市で桜江町川越など8地区約5800人に避難指示が出た。広島市は死者1人、住戸の全半壊25件、床上浸水18件にのぼった。また広島市内の土砂災害発生件数は116件で土石流42件、崖崩れ74件。主な被災地は西区己斐上、西区田方、安佐南区山本6丁目、同区相田、同区緑井、同区大町などとなっている。

このうち広島市西区田方3丁目（御幸川支川）を見てみる。発生は8月14日で被害は住戸24戸など。集合住宅上流部の溪流で土石流が発生し、土砂は複数の住宅を次々と巻き込みながら住宅地脇の道路を流下し、県道71号広島湯来線まで流出した。中国新聞8月20日付広島都市圏版の報道によると、田方3丁目の会社員は雨が強まった14日午後、中区のホテルに避難した。「降雨量に対して側溝の水量が少なく、違和感を覚えた」という。団地の裏山が崩れ、自宅に土砂が押し寄せたのは同日夜。自宅の壁に穴があき。道路は土砂で埋まった。早めに避難したのが幸いしたという。

令和3年8月の大雨による中国地方の被害（2022年3月25日・総務省消防庁参照）

都道府県	人的被害				住家被害					合計
	死者 人	負傷者		合計 人	全壊 棟	半壊 棟	一部 破損 棟	床上 浸水 棟	床下浸水 棟	
		重傷 人	軽傷 人							
島根県				0		5		1	21	27
岡山県				0		1	3		2	6
広島県	3		1	4	11	78	37	120	343	589
山口県				0	2		6		6	14
中国計	3	0	1	4	13	84	46	121	372	636

○西区田方3丁目の被害の状況（「令和3年8月の大雨」＝中国地方整備局広島西部山系砂防事務所＝から）



①土石流による家屋被害 (R3.8.18撮影)



②土石流が住宅地盤の道路を流下 (R3.8.18撮影)



③住宅地盤の道路の状況 (R3.8.18撮影)



④住宅地内への土砂流出状況 (R3.8.18撮影)



広島市西区山手町の土砂除去の現場（8月15日、森島誠司氏提供、画像を一部修正）